

# 輸血部ニュース

発行：広島大学病院 輸血部  
編集： 輸血部長 藤井輝久  
内容に関するお問い合わせ：

5581（輸血部長室）または teruchan@hiroshima-u.ac.jp

## 本院で輸血を行うには？

新年度になり、本院へも多くの研修医や新卒の看護師が就職され、臨床現場で患者さんのケアに携われるかと存じます。また他院から本院へ赴任された医師も多いでしょう。輸血に関しては、病院それぞれ独自の手順で行われているので、戸惑いもあるかも知れません。ですから、今回の輸血部ニュースでは、「本院の輸血実施手順」の中でも、特に誤解されやすい点について、ご紹介します。

### 1. 輸血同意書について

本院の輸血同意書は、同種血と自己血が一つになっており、「輸血療法説明同意書」と名付けられています。輸血施行前に同意を取得するのが原則です。他院で取得した同意書は本院では使用できません。本院で初めて輸血を行う前には、本院の書式で輸血に関する同意を文書で取得頂きますようお願いいたします。

図1：本院の輸血療法説明同意書（一部を拡大掲載）

**輸血療法説明同意書(同種血/自己血)**

\* この同意書は緊急時を除き、患者さんご本人またはご家族等に対し、特定生物由来製品を使用する前に作成します。  
 \* この同意書は、患者さんが今回同意されました疾患の治療が終了するまで有効といたします。  
 \* 同意署名を頂いたものを原本とし患者さんに渡します。コピーを電子カルテにスキャン取り込みします。

広島大学病院長 殿

私はこのたび、下記の項目について説明を受け、わからない点について質問する機会も得て、内容を十分理解いたしました。

1. 治療に関し輸血が必要なこと、また予定される輸血の種類と量

(該当製剤の□にチェックを入れて、予定される輸血量を必ず記入)

<input type="checkbox"/> 赤血球製剤	単位	・	m l	<input type="checkbox"/> 血小板製剤	単位
<input type="checkbox"/> 新鮮凍結血漿	単位			<input type="checkbox"/> 自己血	単位 ・ m l
<input type="checkbox"/> その他 _____					

2. 輸血により予測される効果および危険性（副作用）  
 3. 輸血しない場合の危険性及び代替療法の有無  
 4. 輸血による肝炎ウイルス (HBV, HCV など) やエイズウイルス (HIV) などの感染の可能性と輸血前後にそれらの感染症検査を受けることについて  
 5. 原料の血液を調査する必要性が生じた場合、法律に基づき日本赤十字社に対して使用状況を報告する

### 2. 血液型の確定について

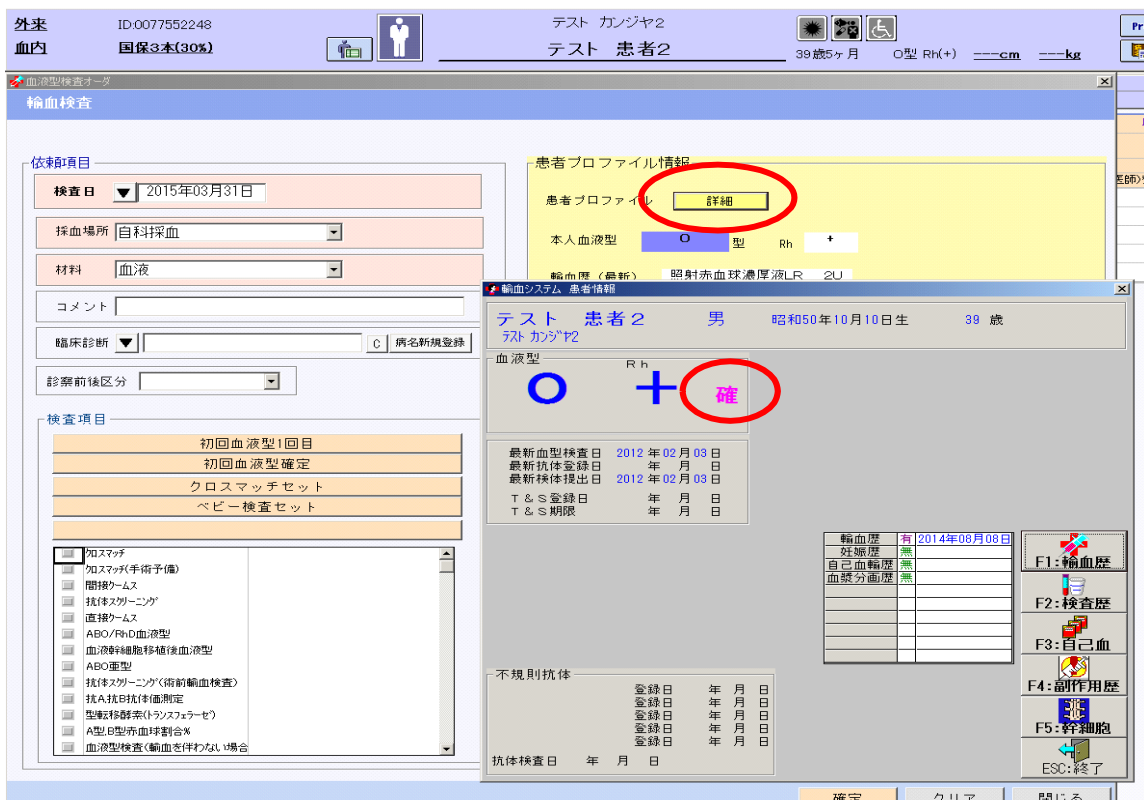
同意書と同じく、他院で確定した血液型は本院では有効ではありません。理由は

過去に、他院で検査された結果が間違っており、そのまま鵜呑みにした医療機関が輸血過誤事故を起こした事例があるか

らです。血液型は、2回以上の異なる時点（同日でも可）で採血頂き、両方の検査結果が一致した場合に確定となります。通常は、血液型検査オーダー画面（図2）より「初回血液型1回目」をオーダー後、採血検体を提出、次に「初回血液型確定」と「クロスマッチセット」を同時にオーダーして検体を提出していただければ、2回の血液型検査がされます。本院での血液型確定ができれば、「患者プロフ

ファイル情報」（図2右）の詳細を開くと血液型の横に「確」が表示されます。もし空欄になっている場合には、2回目の検査がされていない（多くの場合検体が提出されていない）ですから、画面の「初回血液型確定」オーダー、あるいは輸血があるのであれば「初回血液型確定」と「クロスマッチセット」オーダー後検体を提出して下さい。

図2：血液型検査オーダー画面



### 3. 輸血認証

本院では手術室、HCU, NICU, ICU, 高度救命救急センターなど、1ベッド1端末で紐付けされている場所以外の一般病棟における輸血認証は、PDAで行うことを推奨しています。

PDAで読み込むバーコードは、「輸血実施者・確認者ID, 患者リストバンド, 血液製剤3ヶ所（製剤の血液型, 製剤コード, 製造番号）」の各バーコードになります。

図3：各病棟配置のPDA

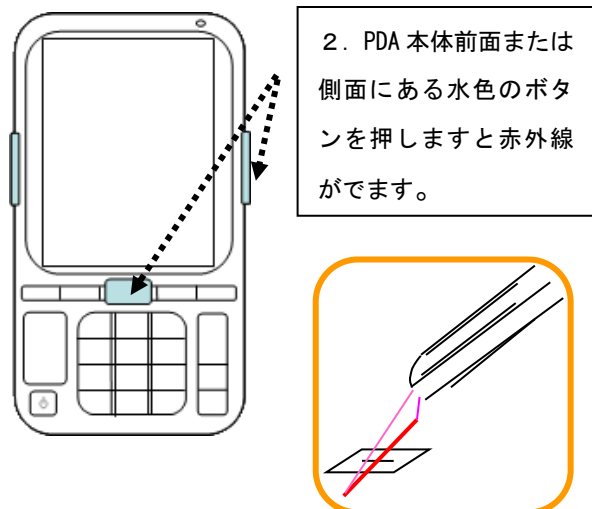


図 4 : PDA の画面



なお実施者及び確認者 ID バーコードは端末の【ナビゲーションマップ】→【共通】→【利用者ラベル】からバーコードラベルを発行してください(自分の職員番号を手入力することもできます)。

4. 輸血の副作用が疑われたら？

本院では輸血中に起きた有害事象(輸血との関連は問わない)は、**全例輸血部へ電話で(内線 5580)ご連絡頂くシステム**となっています。副作用の種類によっては、輸血部より原因検索のために患者血液検体を採取いただくようお願いする場合があります。ご面倒ですが、輸血副作用全例報告にご協力をお願いいたします。

輸血後数時間経過してから起きる副作用もあります(菌血症、輸血関連肺障害な

ど)。そのため、使用済輸血バッグの回収も行っています。使用済輸血バッグは輸血セットのチューブ部分をしばり専用のボックスに入れるか、輸血セットから外されている場合には、使用済み製剤開口部に注射針のキャップを捻じ込んでビニル袋に入れて、指定の【使用済輸血製剤】ボックスに入れて下さい。翌日輸血部職員が回収に参ります。

図 5 : 使用済輸血製剤ボックス

